

長国の埋蔵文化財 その魅力を紹介



若杉山遺跡

古代の徳島は北に「粟国」、そして南には「長国」という国があったとされています。その「長国」のあった県南の市町が共同で埋蔵文化財に関する展示会を行います。本市では「石製品」をテーマに展示会を行っています。本市には旧石器時代の遺跡「甘枝遺跡」や、全国唯一の辰砂採掘遺跡である「若杉山遺跡」があります。また、多くの遺跡で石に関する遺物が多数出土しています。珍しいものでは内原町にある「国高山古墳」から県下唯一の出土例である鉄のとうす刀子（小刀）を模倣した石製の刀子が出土して

います。その他県南の遺跡から出土した石製品をまとめて展示していますので、ぜひご覧ください。

合同企画展の最終日10月16日には講演会を実施します。最近では「若杉山遺跡」の再検討が始まり、そこで使用された石器の詳細調査を実施しました。これらの最新の研究事例などを徳島県立博物館の学芸員である岡本治代さんにご講演いただき、そして県南市町の担当者による調査研究事例も報告します。展示会と合わせてご参加ください。



せきぞく
石鏃（内原遺跡）



滑石製刀子（国高山古墳）



石帯（川原遺跡）

展示

日時 **10月16日(日)まで** 9:00～17:00（水曜日休館）

場所 文化会館1階 ラウンジ・回廊

講演

日時 **10月16日(日)** 13:30～16:00（受付開始13:00）

場所 富岡公民館2階 大ホール

- 内容
- ・「長国の石製品ー若杉山遺跡を中心にー」（60分）
徳島県立博物館 岡本 治代さん
 - ・「牟岐の石製品」（40分） 牟岐町教育委員会 佐藤 俊祐さん
 - ・「阿南の石製品」（40分） 文化振興課 向井 公紀さん

※入場無料。申込不要。

問い合わせは 文化振興課（☎22-1798）へ

世界遺産登録をめざして

現在四国4県と遍路道を有する関係市町村等では「四国八十八箇所霊場と遍路道」の世界遺産登録をめざしています。今年度はその第1段階にあたる「世界遺産暫定一覧表資産候補」にするべく、文化庁に提案書を提出しました。本市でも平成22年度から遍路道の国史跡を進めていて、「太龍寺道」「かも道」「いわや道」「平等寺道」と阿南市の国史跡距離数は約6.3kmとなり、これは四国全体でも最長の距離となっています。さらに国史跡を増やすため、平等寺周辺の遍路道調査の準備を進めています。またこれまでは主に遍路道の国史跡をめざしていましたが、その道の核となる「札所寺院」についても国史跡に向けての取組が開始されています。



遍路道(かも道の七丁付近)



第22番札所「平等寺」

本市では徳島県教育委員会の協力のもと四国八十八箇所寺院では初となる第21番札所「太龍寺」境内の国史跡指定のための意見具申（申請）を行いました。

今回の講演会に多くの市民の方に参加していただき、「四国八十八箇所霊場と遍路道」の世界遺産登録の気運を一層高めていきたいと考えています。

今回の講演会に多くの市民の方に参加していただき、「四国八十八箇所霊場と遍路道」の世界遺産登録の気運を一層高めていきたいと考えています。

日時 **9月25日(日)** 13:00～16:30（受付開始12:30）

場所 文化会館 視聴覚室

内容 <講演・報告>

- ・「平等寺の歴史」（90分） 平等寺副住職 谷口 真梁さん
- ・「阿南市の札所寺院と遍路道について」（30分）
文化振興課 向井 公紀さん
- ・「牟岐町の遍路道について」（30分）
牟岐町教育委員会 佐藤 俊祐さん

※入場無料。申込不要。

問い合わせは 文化振興課（☎22-1798）へ